

# よこすか育成通信

題字：横須賀市長 吉田 雄人

横須賀市青少年育成推進員連絡協議会

## 第6回中学校区対抗ウォークラリー大会

12月11日(日)、穏やかな晴天の中『武士(もののふ)の里探訪 ～三浦一族の足跡を歩く～』を衣笠・大矢部地区で開催しました。  
総勢191名、内スタッフとして育成推進員62名が参加しました。



澄んだ青空の下、大矢部中学校グラウンドに、エントリーした25チーム、111名がぞくぞくと集結。

出発順決めゲームでは、思ったように履物が飛ばせずに悔しがるチーム、力任せに飛距離を伸ばし歓声があがるチーム、スタート前から皆楽しそう。

急ぎよ決まった久里浜Bチーム、澤田君の選手宣誓で大会の幕開けです。

合唱曲を口ずさみながら県道を歩く、揃いのジャージ姿の女子チーム。

衣笠城址へのハイキングコースでは、不安定な足元に、男子生徒の雄叫びが山に響き渡っていました。

満昌寺、三浦義明像の特別公開では、神妙な顔つきで住職の説明に耳を傾けるひと幕も。

例年よりも暖かく、日中は上着を脱いでも汗ばむような陽気の中、地元でしか味わえない歴史の散策を満喫できた一日でした。

(吉田 徹)



### 優勝した長沢中学Aチームに話を伺いました

・3年生をリーダーとして2年生も含め4人で初めて参加しました。後輩に誘われての参加でしたが、思った以上に楽しく、生涯忘れられない経験になりました。

・長沢中は昨年優勝したのでプレッシャーはありましたが、ゲームでも頑張り優勝できたので嬉しいです。

・山の中を歩くコースはちょっときつかったけれど、きれいな景色もあって楽しめました。

・クイズ担当で頑張りました。こういう大会で優勝したことがなかったので本当に良かったです。

昨年に続いての優勝の秘訣を聞いたところ「運です」と皆さん口を揃えて言っていました。チームワークの良さが光った結果だと思えました。







11月19日 16時 北久里浜駅周辺

岩戸・大矢部・公郷中学校区

当日はキャンペーン実施には最悪の風雨で、雨量がことさら多かったため、許可をいただいで、駅構内で、改札口を出入りする乗降客に、チラシ・ティッシュを配布しました。

駅構内では大きなマイクロホンを使うことができないので、タクシー乗り場から、雨に濡れながら「非行防止ご協力」を呼びかけました。

雨の中、バス停で乗車待ちの方へのアナウンスは、例年とは一風変わった趣きがありましたが、皆さん快くチラシ・ティッシュを受けとってくれました。豪雨の中1時間行い、終わったときは安堵感から、にこやかな笑顔がこぼれていました。(澤谷 清)

### わんぱくフェスティバル

10月23日 県立保健福祉大学



恒例となったわんぱくフェスティバルが、今年も県立保健福祉大学を会場として行われました。

平成町のうみかぜ公園や大型ショッピングセンター・ホームセンターを背後に控えた立地の良さに加えて、大型屋根にスッポリ囲われた申し分のない会場に、オープンと同時にどっと親子連れが集まりました。

午前10時に開会式が講堂で行われ、芦澤実行委員長の開会の言葉に続いて、会場を提供して頂いた中村学長より、子どもたちに向かって「是非当大学の入学を目指して欲しい」とユニークなあいさつがありました。最後に、吉田市長は「健康であれば何でもできる、子どもはわんぱくであって欲しい」というメッセージを発信しました。

参加協力7団体(子ども会指導者協議会、ボーイスカウト、ガールスカウト、横須賀市PTA協議会、学童保育協議会、保健福祉大学ボランティアサークル・アナコット並びに青少年育成推進員連絡協議会)は、それぞれ分散して舞台・出店・展示を行いました。



中央通路では各団体の出展と展示の他、中南米音楽の演奏、ガールスカウトによるメイポールダンスが多くの観客の目を引いていました。

講堂では、開会式に続き中学校の吹奏楽やダンス、太鼓やスポーツ団体の演技が披露され、体育館では学童保育団体によるゲーム指導が行われました。

また、おもちゃの病院に大事なおもちゃを持ち込むちびっこに、ドクターも大忙しの様相でした。広い会場の後方入口では、これぞわんぱくの極みとも言えるボーイスカウトによるモンキーブリッジのクライミング体験に、多数の子どもたちが挑戦していました。

青少年育成推進員連絡協議会では、紙ひこうきの手作り体験指導、パネル展示に加え、模擬店を出店しました。

会場中央の「紙ひこうき」の手作り体験コーナーでは、青少年育成推進員と一緒にボランティアの中学生も指導にあたりました。

パネル展示では「青少年の非行防止」を呼び掛け、模擬店では昨年を上回るチョコバナナ1000本を売り切りました。

主催者から、観客動員数4500名と発表され、大盛況の内に終了しました。

(澤谷 清)



### 第44回神奈川県青少年指導員大会

11月20日 大和市生涯学習センター

今大会は、大和市の中央林間一輪車クラブの子どもたちのすばらしい演技から開幕しました。

この後、これまで永年の貢献が認められた62名の指導員の表彰式が行われ、鴨居中学校区の折原幸子さん、長井中学校区の前田尚明さん、田浦中学校区の吉川和行さんの3名が受賞されました。受賞にあたり「子どもの目線で」「心豊かな子どもが増えますよう」「青少年と共に」のコメントがありました。

次に厚木市・海老名市の青少年指導員連絡協議会から、すばらしい活動発表と講演が行われました。

講演では「あきらめない気持ち、かなえる夢」と題して、神奈川県在住の赤坂剛史さんが講話をされました。赤坂さんは、国内のフルマラソンをはじめ、100km超のウルトラマラソン、北アフリカのサハラ砂漠、チリのアタカマ砂漠、中国のゴビ砂漠、南極の250km7日間を完走経験された方で、これらのマラソンを通じて得た一番の教訓である「あきらめないで走り続ければ夢は実現する」というメッセージを子どもたちに伝えたいと、強く訴えていました。

日本を元気にしたいという想いで、夢に向かってがんばる大人が増えれば元気な社会ができる。夢に向かってがんばる子どもたちもたくさん増える。こういった赤坂さんと同様の意識が、われわれにも求められています。これからもよりいっそうの活動を進めていくべきだと感じました。(小川 輝夫)

### 活動体験発表会

2月4日 総合福祉会館

安藤会長の「各中学校区の活動をお互いに参考に」とのあいさつの後6学区からユニー



クな発表が行われました。

**坂本中学校区**：坂中と桜台中の統合による部会組織の一本化について／七夕飾りを商店街へ／中学生の老人ホーム体験／汐入・坂本地区名所めぐり／消防署見学

**鴨居中学校へ統合された上の台中学校区**：シンボルマークの作成／ウォークラリー参加者が自治会のイベントへも参加／3.11の避難活動に際し生徒が活躍

**大楠中学校区**：やんちゃな中学生対応で落書き消し隊の活動、校舎屋上昇り口へのバリアケード設置に本人たちも参加、仲間意識の醸成などで良い方向へ

**長沢中学校区**：校内の畑でジャガイモ・さつまいも収穫体験／北下浦中・津久井浜高校と合同サマーコンサート／インディアカ大会

**武山中学校区**：中学校へベースの子どもたちを招き昼食を一緒に作りフラダンス／自転車の講習会／夏休みに中学生が小学生に勉強を教えた／小学生に学校の中の田んぼで稲作体験

**大津中学校区から寸劇を交えて**：ふれあい教室では初めて小学生と一緒にチョコバナナ作り、折り方を伝授した中学生を講師に紙ヒコーキ作り／北久里浜秋祭りで模擬店を出店

最後にこども青少年企画課長からの「地域で青少年は良い体験をしていることを実感した。4月から任期が新しくなりますが、よろしくお願いします」との言葉で閉会した。

(芦澤 雄一)

## ♪ ゆうやけこやけ ♪

私の住む地域では、ここ数年中学生の地域行事への参加がとても少ない。子ども会のような組織が無いのに、学校の部活やスポーツのクラブチームなどでとても忙しいようだ。

お祭りのお囃子のように活動が限定していて、力を発揮できる物もあるが、スポーツ大会・避難訓練・地域の運動会・餅つきなど、自治会では常に中学生たちに参加を求めている。

今日も、中学校の校長先生に餅つき大会の案内を渡してきた。回覧板や掲示板のほかに、学校からも中学生に地域の行事への参加を促してもらうために。また、部活動にも協力をお願いしてきた。そして当日は、手伝う仕事があり、感謝され、充実感を味わってもらう為にどうするかまで考えている。過保護なようだが・・・(Y. O)

### 編集後記：

時の流れは早いもので、今年度の青少年育成活動も終わろうとしております。未来ある青少年とのふれあいに、どれだけ貢献できたかわかりませんが、頑張ってきました。今後も支援していただいた皆さんとのコミュニケーションをよりいっそう大切にしていければと思っております。

(編集担当 小川 輝夫)

「よこすか育成通信」第12号

発行／横須賀市青少年育成推進員連絡協議会

会長 安藤 隆正

〒238-8550 横須賀市小川町11番地

横須賀市役所こども育成部

こども青少年企画課内

TEL 046-822-8223